



## トカゲのしっぽは、どうして切れたあとも動くの

### 切れたしっぽは、しばらく生きています

トカゲのしっぽは、敵におそわれたとき、簡単に切れて、トカゲがにげだせるようなしなやかになっています。しっぽが切れる場所は決まっています、切れてもすぐ切れた部分の筋肉がしまり、血もほとんど出ないような、体の作りができています。

切れたしっぽの先のほうは、切れた瞬間に死んでしまうわけではありません。しっぽの筋肉も、しげきを伝える神経も、しばらくは生きています。そのため、しっぽが切れた瞬間の「いたいっ」と感じたしげきが、切れたしっぽに伝わったままなので、しっぽの筋肉がびくびく動くのです。この、びくびく動く切れたしっぽに、敵の注意が向いているうちに、トカゲはにげだせるようになっています。

### 生き物の体は、部分だけでも生きています

人間やさまざまな生き物は、小さい一つ一つが生きています、細胞というものの集まりでできています。たとえば、人間なら、心臓から血液によって、体に必要な酸素や栄養分が全身の細胞に運ばれ、外からのしげきは、神経で全身に伝えられるようになっています。人間が死んで心臓が止まり、血液が送られなくなると、全身の細胞もやがて死にます。しかし、心臓が止まってすぐは、細胞は生きていますから、死んだ人のひげやつめが、のびたりすることがあります。

(監修・今泉 忠明)

